

研究全体構想図

研究主題

ともに学び合いながら理解を深め、主体的に学ぶ子供の姿をめざして
～アクティビティ型の授業の設定とファシリテーションを活用した指導方法の工夫を通して～

研究における問い

- ①本校児童における「自己調整力」とはどのような力か？
- ②児童自らが自己調整力を育むような「アクティビティ型の授業」の在り方とは？
- ③児童自らが自己調整力を育むような「教師のファシリテーション」の在り方とは？

児童につけたい資質・能力

「知識を生かし深める力」 「共に考え伝え合う力」 「自ら関わり学び続ける力」

三要素	動機付け(どこに向かって)⇩	学習方略(どうやって)⇩	メタ認知(どうだったか)⇩
学習過程	見通す⇩ 【自ら問いをもって探究する】	実行する⇩ 【人と関わり、協働して探究する】	振り返る⇩ 【学んだことや学び方を自己に生かす】
児童の姿・つぶやき	問いの表出・解決への見通し・ゴールイメージの交流、共有・価値の思考。 ・「あっ!」「えっ!」 ・「なぜだろう?」 ・「もしかすると〇〇かも」 ・「やってみよう!」	個や集団で見方・考え方を吟味し、知識・技能を再構成・価値の探究。 ・〇〇したら●●できた。 ・そういうことか! ・そういう考えもあるな。 ・他にもないかな。	見出した解(学び・学び方)について、その面白さやよさを実感・価値の創造。 ・〇〇ってこういうことだ。 ・面白かった!次もやりたい。 ・便利だな。 ・もっとよくするには・・・
アクティビティ型	問いの表出、創造⇩ ・経験や体験を通じた出会いから2段階での課題設定 ・解決に向かう探究活動を自己選択・自己決定 ・評価シートの作成	多彩な交流活動⇩ ・自然発生的な交流⇔意図的な交流の往還 ・共通体験⇔試行錯誤の往還 ・具体⇔抽象の往還 ・評価シートの吟味	価値づけ、審観視⇩ ・評価シートの再考、修正 ・評価シートで相互評価 ・評価シートを用いた振り返り
ファシリテーション	場をつくり、つなげる⇩ 「どうしたい?」 「どうなりたい?」 「やってみよう?」 「何のために?」 「どうなればいいのか?」 「どうなりそう?」	受け止め、引き出す⇩ 「なるほど、確かに。」 「本当に?」「もう他にはない?」 かみ合わせ、整理する 「それってどういうこと?つまり?」 「どこに着目したの?」 「どんな関係?」「何がすごい?」	まとめて、分かち合い、伸ばす⇩ 「どんな力がついた?」 「どんな価値があった?」 「次はどうしたい?」 「〇〇ということかな?」 「〇〇というところがすごい!」 「どう生かす?」

検証の視点	検証方法	達成目標
標準学力検査による学力定着度の客観的把握		